

若者の定住を促進する住宅政策にどう取り組むか

重要な課題であり優先して取り組む



岩田 秀一 議員

少子高齢化、過疎化の進行は町民の誰もが危惧している。手をこまねいている訳にはいかない。過疎化対策の一環として若い人に一人でも多く定住してもらうために住宅政策は重要なことだが、町長はどう考え取り組んでいくのか。

民間活力を

引き出す手法で

町長

定住促進策は重要な課題であり、十分認識している。民間資本による分譲マンション（グランステラ大崎）等、既存の町有地と民間活力を活かす手法で取り組んできた。今後は、企業及び企業誘致による雇用創出が定住化を促すという考えに沿

い、民間活力を引き出せるような手法で取り組んでいく。

野方地区の

住宅政策は

岩田議員

当地区は国道269号線が通っており、野方支所を中心に交通の便、教育環境も良く、生活の場として諸条件は整っている。しかし、農振地域や地価等の問題で適正な宅地が得られないのが現状である。対策はどう考えているのか。

民間と行政施策の

バランスを考えて

町長

野方地区においては、国道より南側を中心に民間による借家や土地の分譲が行われている。引き続き民間が経営する部分と行政が施策し実施する部分とのバランスをとりながら取り組んでいく。

町営住宅の空き地と 家畜検査場跡地の 利用は

岩田議員

両土地とも長年何も利用されていない。住宅地として考えていないか。定住対策として早急に取り組みことを強く要望する。

前者は住宅地、 後者は

企業誘致として

町長

町営住宅空き地については、生活の利便性が高いところであるので、定住促進策として土地の売却、貸付等を考えている。家畜検査場跡地は企業誘致として考えており、何年度とはいえないが、早急に取り組む。

職員の採用は

岩田議員

平成16年度以来、新規採用をしていない。行財政改革等による人件費の削減等が大きな要因だとは理解しているが、地方公務員を目指し、町のために頑張ってみようと思っている若者はたくさんいると思う。今後はどう考えているのか。

平成20年度は

採用試験を

町長

ここ数年は採用を控えていた。その背景には財政の問題、国が定めた地方公務員数の削減方針等によるものであった。平成20年度は採用試験を実施する。



野方小学校に隣接する町営住宅跡地